

『復興ニッポン』を支える銅

社団法人日本銅センター 副会長
日立電線株式会社 執行役員金属材料事業本部長



後藤良太

三月に発生した東日本大震災で被災された皆様に
謹んでお見舞い申し上げます。

今回の震災以降、『銅』が伸銅品や電線として、
電力、輸送、通信などの社会インフラを支える材
料として、また家庭の中でもエアコンなどの電気機
器、給湯機器や水廻りなど非常に幅広い分野で使
われており、また重要な役割を果たしていると改
めて感じた。

『銅』は人類が初めて手にした金属であることは皆
さんもご存知の通りですが、一万年以上の歴史があ
り、導電性や伝熱性、抗菌性といった特性に加え、
加工性に優れ、また合金化のし易い金属であるこ
とが、その用途の広がりにつながったといえる。

今年の夏は、原発事故の影響により電力供給が減
少するなかで、企業だけでなく家庭においても、
様々な節電対応をしたわけであるが、これは今年
の夏に限ったことではなく、今後も継続して取り組
む必要があるのでは、と考えている。日本は石油
などの鉱物資源の少ない国であり、その多くを海
外から調達してきた。震災によってこのような状況
になったものの、これはいつかは乗り越えなければ
ならない課題でもあったはずである。

電力について言えば、節電と、太陽光・風力・地
熱など再生可能エネルギーの利用ということにな
る。節電の為に我慢してエアコンのスイッチを消すの
ではなく、省エネ（エコ）家電やITを使ったスマー
ト節電などの技術開発が進んでいくと思われる。
また再生可能エネルギーについても電気代が高く
なつては普及の妨げになるので、その効率化ととも
にリチウムイオン電池をはじめとした分散電源の高
容量化は必須であ
る。これらの新しい
市場においても、
『銅』という材料へ
の期待は大きいし、
また市場規模も拡
大していくと感じて
いる。こうしてみ
ると『銅』と言
う材料が、未曾有
の大危機を乗り越
え社会の新たな発
展のために重要な材
料であると改めて確
信している。



銅

目次

2	カパーロマン 『復興ニッポン』を支える銅 後藤 良太
3	銅の歴史物語 山崎院跡出土の銅塊
4	ルポルタージュ 開陽丸とともに海中に眠る 銅の遺物を引き揚げろ！
6	リレー随想 遠い未来の目を持つ時、真理が見えてくる。
8	ユーザー訪問 銅製ダイカストロータの量産技術を確立
10	銅を学ぶ銅話の世界 謎をひもとくー長崎出島から世界へ渡った銅
12	カパーローム いま、時代が求めるEVと銅の役割
15	随筆再掲載 顔・遠藤周作 旅行と移動・團伊玖磨
17	ICA News
18	銅センターニュース／トピックス